

令和5年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立東調布第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・全学年の「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」の領域で目標値を上回った。
- ・昨年度の課題であった漢字の定着はまだ学年差はあるものの、目標値は上回り、ボトムアップが図れている。

(2) 課題

- ・話すこと、聞くことが概ね目標値と同程度の学年が多い。大切なことを聞き、端的に話す活動の充実を一層図る。
- ・どの学年も記述式の設問に対し、無回答の割合が1割～2割程度いる。書くことへの苦手意識、理解不足が課題となっている。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	全国の平均値を 1.6割上回った。	/	/
第5学年	全国の平均値を 6.9割上回った。	全国の平均値を 7.0割上回った。 (第4学年時)	/
第6学年	全国の平均値を 0.6割上回った。	全国の平均値を 3.4割上回った。 (第5学年時)	全国の平均値を 1.5割上回った。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第4学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を2.9割上回った。特に、「我が国の言語文化に関する事項」については、目標値より10.2割上回っていて、学習成果が上がっている。	目標値を2.1割上回った。ただし、「話の内容を聞き取ること」については、目標値よりも1割近く下がってしまっている。	目標値を2.4割下回った。ただし、記述問題の「調べたことをもとに文章を書くこと」については、全国平均よりも7.6割上回った。

② 第5学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を10.2割上回った。ただし、「連用修飾語の理解」については、目標値よりも28割下回っているため、言葉の特徴や使い方については課題が残る。	目標値を11.3割上回った。特に、「登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えること」については、目標値よりも23.7割上回っていて、学習成果が上がっている。	目標値を7.6割上回った。特に記述問題の「内容の中心を明確にし、自分の考えの理由や具体的な事例を書くこと」については、目標値よりも14.1割も上回っていて、学習の成果が上がっている。

③ 第6学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を4.2割上回った。特に、「漢字を読むこと」「漢字を書くこと」については、目標値よりも8割以上も上回っていて、学習成果が上がっている。	目標値を3.1割上回った。ただし、「登場人物の心情について、描写を基に捉えること」については、9.5割下回っているため、課題が残る。	目標値を4.4割上回った。特に、「互いの立場を明確にしながら計画的に話し合い、考えをまとめること」については、目標値よりも24.7割も上回る結果となった。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 音読や詩の暗唱などの活動を通して、言葉に親しむ経験を積み重ねる。 助詞や拗音、長音等の言葉のきまりについて、プリントなどを活用して繰り返し練習し、定着を図る。 MIMのアセスメントを定期的に行い、必要に応じて個別指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えを明確にすることを大切にして「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の指導を行う。 スピーチや、ペアや小グループでの話し合いなどを行い、話す機会を意図的に設定する。 話型や書く順序を提示することで、思いや考えを具体的に表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉のよさを感じられるように、読書に親しむ機会や仲間と話し合い、思いや考えを伝える機会を意図的に設定する。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 漢字を読む、書く、主語と述語の理解など、言葉についての基礎的な学習内容の定着を図る。 朝学習での読書の時間や家庭学習で取り組む音読などを通して、我が国の言語文化に親しむことや理解を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 書くことの指導を重点的に行い、各教科の学習場面で書く機会を意図的に設定して習熟を図る。 知らせたいものや伝えたい内容の中心を捉えて書くことが意識できるような指導を行う。 話し手が伝えたいことの中心を捉えて、必要なことをメモしながら聞く指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が感じたことや気付いたことを言葉で表現することを意図的に指導する。 ペアや小グループなどで話し合っただけで考えを共有することや、文章で書いた考えを交流する活動を設定し、自分の思いや考えをすすんで伝えるようにしていく。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 朝の時間に前年度までの漢字の学習プリントを行う。 語句の学習については、日常から短文を書く活動などを取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手や目的を具体的に設定し、発表機会などのゴールを示してから文章を書いたり、話したりするように単元を構成する。その際、異学年への発表を積極的に設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えを表現したり、まとめたりすることを取り入れていく。また、文章で自分の考えを書く活動を充実させる。

4 重点指導事項

- 漢字の定着や言葉についての基礎的な学習内容の定着を図るためにも、タブレットの入力だけでなく、鉛筆を使って自分で文章を書く機会を増やす。(知識・技能)
- 文学的文章の学習では、登場人物の言葉や行動、情景描写に注目する指導を行い、叙述から心情を考える機会を増やす。(思考・判断・表現)
- 自分の考えを文字言語でまとめる時間を確保する。その際、書くことがすすまない児童には、友達の考えを聞いて参考にしたり、授業者からのヒントをもとに考えたりするように指導する。
(主体的に学習に取り組む態度)